

大野一心

NO.35

令和5年2月9日(木) 文責：校長 諸熊 修一

SHOGEN さんが再び来校！

昨年度も人権学習の一環として、SHOGEN さんに来ていただきましたが、今年度もPTAの協力により本校へお呼びすることができました(来校日：2月1日(水)、2日(木)、8日(水))。

SHOGEN さんは、全国各地でワークショップなどに取り組むアフリカンペイントアーティストです。昨年度は講演を聞いた後、「土の中」をテーマに6つのグループに分かれて話し合いながら、物語を創っていきました。クレヨンを使って、一枚の模造紙にそれぞれが思いの絵を描いていくワークショップでした。

今年度は、1年生は「海の中」をテーマにした「お話づくりワークショップ」。2, 3年生はTシャツに自分自身の思いをペンキで自由にペイントしていく「Tシャツペイントワークショップ」でした。自分の思いや考えをクレヨンやペンキに託しながら、どの学年も楽しく活動していました。

このような活動を通して、友達の思いに共感し、いじめや差別のないすべての子どもたちが安心して学びあえる学習環境につながっていくことを願っています。



校長室前にある SHOGEN さんの作品



お話づくりワークショップ



Tシャツペイントワークショップ

【長崎新聞社から取材が来ました】(2月8日付長崎新聞)

Ｔ
シ
ャ
ツ
に
思
い
切
り
イ
ラ
ス
ト

佐世保・大野中でペイントのワークショップ

水性ペンキを使ってTシャツに思いの絵を描くワークショップが2日、佐世保市松瀬町の同市立大野中(諸熊修一校長、579人)であった。

全学年で実施している人権学習の一環。本年度最後の取り組みとなる今回は、自己表現をしつつ互いに認め合う心を育もうと、全国各地でワークショップなどを行うペンキ画家、SHOGENさん(36)＝京都府出身＝を講師に迎えた。

2年2組は36人が参加。アフリカで絵を学んだSHOGENさんは、絵にうまい下手はなく、好きか嫌いかの好みの問題だとして、「周りには気にせず自分に集中して自分らしさを追求してほしい」と呼びかけた。

生徒たちは6色の水性ペンキを混ぜて「今日の心の色」を作り、イラストを描いたり色を塗り重ねたりして自分

思いの思いに筆を動かす生徒たち
＝佐世保市立大野中



を表現。終了後、どんな気持ちで描いたかを作品を見せながら一人一人発表した。桃の木を描いた田中誠歩(せいほ)さん(14)は「皆、頭の中にある自分が思うものを描けていて良かった。思い切り好きなように描けて楽しかった」と笑顔で話した。(堀内優子)